

親鸞の生涯 31



ご法義のうえの深刻な疑問や念佛集団間の確執の訴えなど、関東の弟子の多くが京都市に帰った親鸞のもとを尋ねてきました。そのときの一場面を伝えるこの文に、親鸞の等身大の姿を伺うことが出来ます。

「あなたがた。十幾つもの国々を越え、いのちの危険も顧みず、わたし親鸞をたずねてきてくださいたその目的は、淨土へうまれていく道を問いただしたい」というただそのこと一事のためでしよう。ところが、もしあなたがたが、「親鸞は念佛以外に、往生の道を知っているのではないか」とか、「あるいは往生に関する格別の教義を実は知っているのではないか」とか、「親鸞わたくしの信心は、この通りです。もしそういうことをお聞きになりたいのなら奈良の興福寺や京都の比叡山延暦寺には、仏教を研究しておいでのかながちいたお会して淨土往生の肝要な教えを詳しくお尋ねになるがよろしい。この親鸞においては、ただひとすじに念佛して阿弥陀如来さまにたすけられましょ」との老師匠法然さまの仰せを頂いて信じているそ眺たけで、そのほかになにひとつ特別なわけなどありません。関東の方では念佛するものは地獄に落ちると言い脅すものもあるようですが、この親鸞は、念佛がほんとうに淨土に生まれたねなのか、また地獄に墮ちる業なのか総じてもって知つてはおりませ

ずもありません。なぜかと言つて、念佛以外の修行を勵んで成仏するはずであったものが、念佛申したばかりに地獄に墮ちたとでもいうのであれば、騙されたという後悔もありましょうが、しかし、もともとどんは修行も出来ない愚鈍な私です。所詮、地獄こそこのわたしの住み家といわねばなりません。

歎異鈔第一一条

しかし、この愚鈍なわたし親鸞をこそ救くださった阿弥陀如来の本願がまこと眞実であるならば、そのご本願を伝えるためこの世に出現くださった釈迦の教えがいつわりであるはずはない。釈迦の説教がまことならば、本願念佛のこころをあらわされた中国の善導大師さまの御釈もいつわりであろうはずはない。善導の御釈まことならば、善導さまに傾倒なさった法然さまの仰せが、どうして嘘いつわりでありましょうか。法然さまの教えをそのままいたでいるこの親鸞の申すことも、だからあなたがちいたずらごとではありますまい。

この上は、念佛のおしえを受け取つて信じゆかれるか、それとも、縁なき道としておられるのでしたら、それは大きな誤解です。もしそういうことをお聞きになりたいのなら奈良の興福寺や京都の比叡山延暦寺には、仏教を研究しておいでのかながちいたお会して淨土往生の肝要な教えを詳しく述べる」といふことになります。

さて、もう一つの問題が、この親鸞の心事です。もしそういうことをお聞きになりたいのなら奈良の興福寺や京都の比叡山延暦寺には、仏教を研究しておいでのかながちいたお会して淨土往生の肝要な教えを詳しく述べる」といふことになります。

さて、もう一つの問題が、この親鸞の心事です。もしそういうことをお聞きになりたいのなら奈良の興福寺や京都の比叡山延暦寺には、仏教を研究しておいでのかながちいたお会して淨土往生の肝要な教えを詳しく述べる」といふことになります。

私は孫で、新時代の科学知識の中で感動を得たようでしたが、孫のような科学的天文学知識を持ち合わせない八十過ぎの老人のわたくしも、実はそれなりに大いに感動し、ひとりこんな瞑想にふけつたことでした。

私は孫で、新時代の科学知識の中で感動を得たようでしたが、孫のような科学的天文学知識を持ち合わせない八十過ぎの老人のわたくしも、実はそれなりに大いに感動し、ひとりこんな瞑想にふけつたことでした。

無縁の慈悲

私は、この春休み、中一の孫のお供で、明星の天文台に行つて参りました。プラネットリュームというものをはじめて見学し格別

「如來」「如是」「自然」「如法」。縁起のままに隋順して生きる。仏法では、これを「淨土」。その反対を「穢土」と言つてはいる。「淨土」とはなにか

久遠劫より今まで流转せる煩惱の旧里はすがたく、いまだ生まれざる安養淨土はこいしからず候うこと、まことによくよく煩惱の興盛に候うにこそ。なごりおしく

思えども、娑婆の縁つきて、ちからなくして終わるときに、かの土へはまいるべきなり。いそぎ参りたきこころなきものをことわれみたもうなり。

二十年前、亡くなつた前坊守のことを思

う。枕邊においていて何度も何度もこの歎異

鈔を私に読ました。親子の縁をはじめいろいろな「縁」がいまさらと思われる。最後まで名残惜しい。気になる。絆が断ち切れ

ない。にもかかわらず病は進行し否応無く婆婆の縁は尽きてゆく。婆婆の縁に武者振りつけこうとしてもやがて否応無くそこから手が離れてしまう。ちからなくしておわるときがもうすぐやってくる。しかし、そこがお淨土なんですね。とお念佛もうしたそ

人の人の臨終を思う。

おおきな宇宙に輝く一つの星として如来孫といっしょに仰いだ無縁の大慈悲の世界をわたくしはいまもおりにふれて思い出している。

この縁起の、均衡・バランスを崩すものが個我的意識。無明と渴愛。我見・我執。

縁起を見るものは法を見る。法を見るものは縁起を見る。

もつとも卑近な例として、縁起を観する時においてさえ、ついつい今の私にとって都合のよいものだけを選別して「ご縁をよろこぶ」のである。祖先崇拜などと称し

年回法事

地方の習慣で、一周忌から始めて三・七・(十)・十三・(十五)・十七・(二十)・二十三・二十五・三十三・五十・(七十)・百回忌などと勤めていきます。

なんのために勤めるのか。

「御恩報謝」のために勤めます。どのようにしたら御恩報謝になるのでしょうか。

世間一般には「追善供養」をすることだと言われています。「追善供養」ってなにをどうしたらよいのでしょうか。

「追善供養」を詳しく言うと「追加・善根・供養」のことです。

往生成仏して悟りの彼の岸に渡り着く六つの「行」を積まねばなりません。それを「六度(六バラミツ)の行」と言います。

布施(ほどこし)・持戒(自制)・忍辱(耐え忍ぶ)・精進(たゆまぬ努力)・禪定(集中力)・智慧(真実を見抜く目)。そのうち一つでも落とせば成仏できません。

亡くなつた人は、あるいは仕落としたものがあつたとしたら、悟りの世界には行き着かずに迷つてゐるかも知れません。

生き残つた者の勤めとして、その落とした善根を、私が代わつてして、その功德を追加プレゼント(供養)して上げようという気持ちです。それで法事の「お供養」を盛大にして親孝行をしましょとういう訳です。

「稚氣愛すべき愚行(いかにも子供っぽい馬鹿げた仕業)」といつてもいいこんな法事はしたくありません。

では、ほんとうの法事とは。

死んだ人や祖先の為にするのではありません。その方の命日などをご縁にして、「わたしの生と死」について真剣に考えてみる、これが法事の目的でなければなりません。

日常私は、わたしの「いのちの意味」または「まぬがれられない死」について、むしろ目をそむけて生活しています。しかしどんなに目をそらすとも、生きている現実はごまかしようがないし、死は否応なく到来します。

お釈迦さまは、ものの生と死を「縁起」という見方で示してくださいました。

すべてのものは、無数不可思議な関係性のなかで生滅去來存亡しているのだ。単独自我の我執を転じて、はるかにおおきなその法(真実真理)にめざめようと勧めてくださったと申します。

法(真実)のはたらきのなかに生死しよ。

法のはたらきのことを如来(如より来る)。または法事(真実のはたらき)。

「拝まぬものが拝まれている」

この生死の真実に目覚めましょうと呼びかける如来の声を聞く當みが「法事」です。

間違つた笑いは自分だけではなく他人の元気も奪う。正しく笑おう。

笑い大抵ハ行で笑います。

ハハハハ。ヒヒヒヒ。フフフフ。へへへへ。

これが基本で、その他、力行での笑いもありますが、あなた。どんな笑いが好きですか。また、どんな笑いに傷つけられますか。

ヒヒヒヒ! 人を見下げ蔑む、いわゆる嘲笑です。

フフフもへへへも、陰でこっそり人を見下されたときの笑いです。

ヒヒヒヒ! 人を見下げ蔑む、いわゆる嘲笑です。

わたしの職場について見てみると、大っぴらに面と向かって人を蔑む人がいません。「あんた馬鹿ねー。そんなこと出来ないの。」「禿げ頭、黙つとれ!」「ひつこんどれ!じじい!」。面と向かってこの種の露骨な罵声が飛び交う場面もあります。

しかしそれに対しては、「それは大変な差別だよ。人を蔑んで自分が下劣じゃーないの」などと、たしなめることもあります。

しかし、言葉や態度には出さないで、また、真正面からみるのでなく横目で、ヒヒヒヒとせせら笑つたりフフフと軽蔑の含み笑いをしたり、へへへと「お前なんかとは関係ねー」と突き放したような笑いなどには、総体表向きでないだけに、なんともイジイジとした腹立たしさを覚えます。

同じ職場で、同じ苦労をしながら働いている仲間ジャーないか。

技術や学歴について言えばもちろんいろいろ格差があるはある。

給与の高低もあるし、年齢の差もある。

手術、四月一日無事退院しました。この間皆様にご心配いただきご迷惑もおかけしました。御礼おわび! 上げます。現下、老軀を労りながらも仕事に励ませていただいている。今後ともよろしく。感謝。

勝胱に腫瘍がみつかって3月中旬に入院

二十二日→二十五日 本山平成大修復完成慶賀法要

二十三日 降誕誕生日

二十四日 善立寺永代経

一〇日 一四・一五日 平田専福寺永代経

七日 齋藤 義明氏宅法事

五月		臘月さつき	のこよみ
二日	湯口年枝氏宅三回忌法事		
三日	数森止之様法事		
四日	兼井 通夫氏宅法事		
五日	宮嶋 千秋氏宅法事		
七日	朗誦ボランティアあすなろ		
一〇日	齊藤 義明氏宅法事		
一一日	平田専福寺永代経		
一四・一五日	平田専福寺永代経		
二十六日	みのりを聞く会		
二十七・八日	竜大同窓会(広島)		
三十日	兼井 正美氏宅法事		
三十一日	裕氏宅法事		
出石組念佛奉仕団			
二十二日→二十五日	本山平成大修復完成慶賀法要		
二十三日	降誕誕生日		
二十四日	善立寺永代経		
二十六日	みのりを聞く会		
二十七・八日	竜大同窓会(広島)		
三十日	兼井 正美氏宅法事		
三十一日	裕氏宅法事		

四月十九日	葬 身 儀	久雄 様	八十五歳
-------	-------------	------	------

そうではなくて、だれも同じ悲しみ悩みを持っている。みんな同じような悩みがある。心や体に障害を持っている。表には出せない最低レベルのところで付き合つたら、「みんな同じ仲間じゃーないか」「きょうだいなんだ」。はじめて人間の出会いがあるように思いました。間違つた笑いは自分を誇る笑い。この笑いは人を傷つけだけでなく、人から「あんな傲慢な奴」とだれもから相手にされなくなる。

テレホン法話 0796-52-5800

